

保科晶の雑記帳

2007



明けまして、

昨日はいつもの神社へ初詣。

あたたかくいい天気。

去年もそうだった。

何年か前、14、5年飼っていたクサガメを

この神社の池に引き取ってもらった。

一匹は、行っていいの？という顔をして、

私を見ながら、池の中へ、

泳ぎが下手だと思っていたが、そうでもなかったね。

もう一匹は、すいっともぐって、浮かんできて私を見た。

(と、思った)

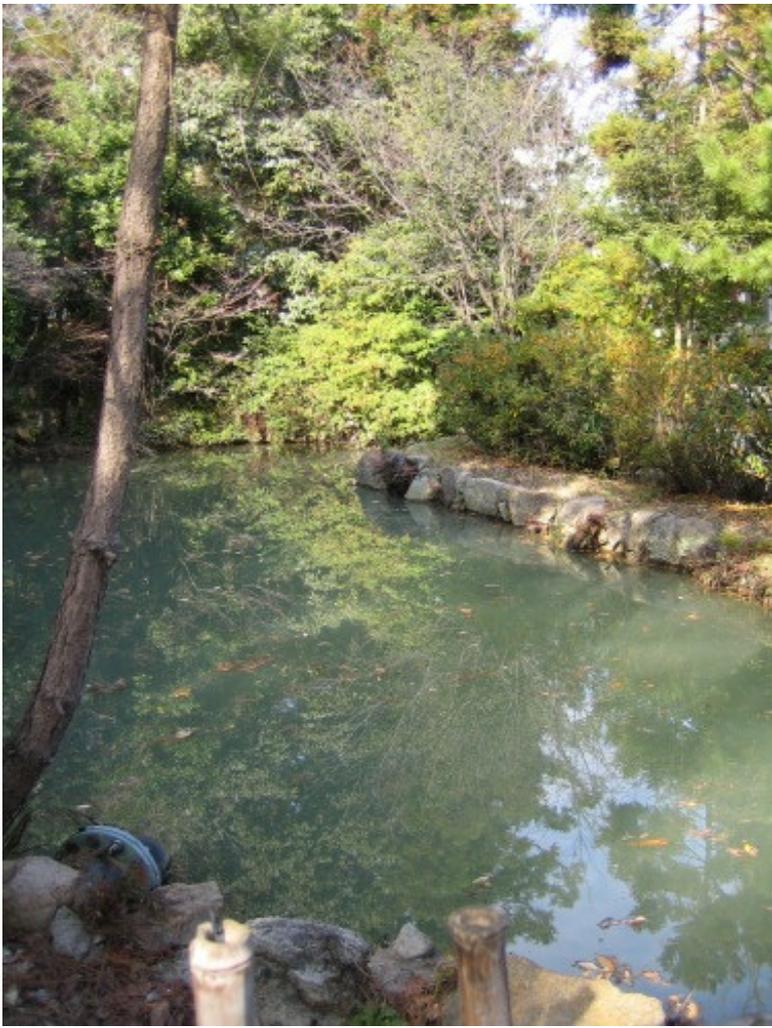
それっきり、バイバイだ。

ぐりっ！ぐらっ！

寝てるよね。

夏に来なくっちゃ。





[明けまして、](#) [2007-01-02 15:47 by guminomi2]

えべっさん

今年の本戎に行ってきました。
30年近く前に行って本殿前で押しつぶされそうになって、
ず〜と行かず、何年か前からはもっぱら残り福。
今日は、まあ、なんと！ぽっかぽかの参拝日和。
空には私の好きなマグリットの雲。
去年からは、北口からのバス利用、便利、便利。
意外に整然として、人波あれど混雑なし。
真昼間のせいか、えべっさんは夜が本番だものね。
いつも思うのは、なんでここに馬がいるのだろうか？
青銅で出来ているようだが、精悍な感じで、ちょっと不気味。
狛犬も青銅のようで、たくましい。
でっかいマグロを置いて、5円を貼り付けているのもこの特徴。
ここに参ったとてどうなるものでもないが、行かないと
胸の中にひとつ残ったものがあるようで、今年もまた行った。
母に、私にもひとつ、と頼まれていたこともあるけれど。

えべっさんに行って正月が終わるのね。
もらうものは福のほかにもうひとつ、露店のにおい。
鼻にみっしり、ついてくる。





[えべっさん](#) [2007-01-10 21:56 by guminomi2]

阪神大震災12年。

瓦屋根がなくなりました。

大きな瓦の屋根が地べたに這いつくばっている姿を見たら、もうつくれないでしょうね。

西宮の人口が増えました。

大きなお屋敷後に、大きなマンションが建ち、子どもがやってきました。

見事なくらいに家が建て変わりました。

中で柱にひびが入っていたり、外からはわからなくても住めなくなっている家が多かったようです。

小学校など、昔の面影がなくなってしまいました。

あれ以後、世の中の状況もずいぶんと変わり、

一戸建ての社宅がほとんど空家になっています。

まだまだ集合住宅が増えていくでしょうね。

それとともに生垣がめっきり少なくなりました。

今の家並みが、しっくりとなじんでいくには

かなりの時間がかかりそうです。

仁川の上流には、下から眺めると帽子をかぶったように
はるか上まで家々が連なっています。

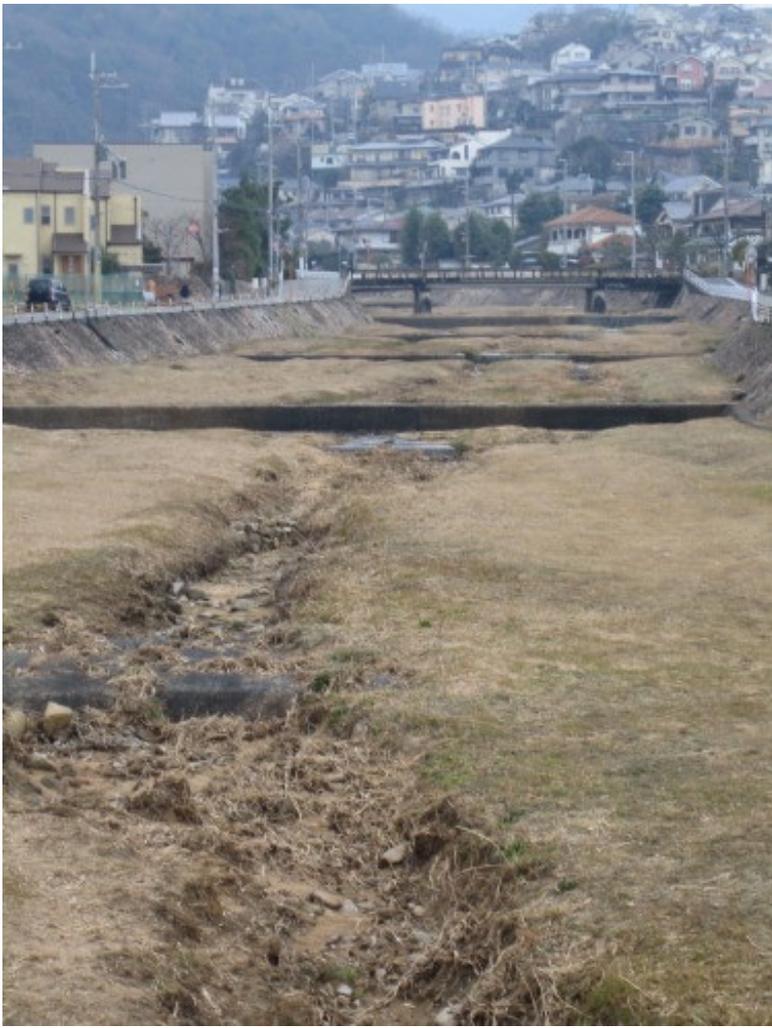
その片側には「地すべり資料館」があり、一帯は公園になっています。

あの日、仁川に向かって滑り落ちていった場所です。

西宮市のバスが1台停まっていた。

今日は雨模様でした。

仁川の川岸の家では蠟梅が真っ盛りで、かおりを放っていました





[阪神大震災12年。](#) [2007-01-17 23:11 by guminomi2]

梅見

一番冬枯れのこの時期、梅見のついでに、あちこち、2時間ほどデジカメ片手に、定番の近所周りをした。風は冷たいが、陽射しはあたたかく、暖冬である。今のこの時期、葉を落とす木は徹底的に落としている。はげの木も実だけが枯れ木色で残り、もみじも白っぽい粹組みだけのようである。空き地にはセイタカアワダチソウがからからとドライフラワーの様相を見せている。そのなかで楠の大木はごつごつしたこぶのような幹の途中から、若木を出し、春の一斉の衣替えの時期まで冬の緑を保っている。くすのき通りの名のごとく、大木が道の真ん中に並び、緩やかな坂道を登りきったところが大学である。大学の正面から、まっすぐに、葉を落とした桜並木を5分ほど歩いたところに梅林がある。肝心の梅の方は一分咲きといったところか。冬至、という白梅がまあまあ、紅梅は2、3個、開いているぐらい。この梅林に蠟梅があるのに、気がついた。盛りは過ぎたが、かそけきにおいをただよわせている。思えば、この時期、梅林に来たのは初めてだ。道すがら、蠟梅のある家が何軒もあってちょっとうれしくなった。花のあとでは、蠟梅と気がつかなかったようである。それにしてもかなり広い一軒屋の社宅が全部空家になっている。マンションが何棟も建ちそうな広さである。地震後の世の中の移り変わりが現れている感じがする。生垣のある落ち着いた門構えのある家が、ぐんと少なくなり、まるで神社の鳥居のような、これでもか！とあたりを睥睨しているような門が増えた。流行だろうか。さて、冬枯れの中で、色を放っているのが山茶花である。緑の葉っぱと、桃色の花と。散り落ちた花びらもうつくしい。





[梅見](#) [2007-01-28 15:14 by guminomi2]

至福のひとつき

時は午前中、
洗濯、家事はすべて済み、
陽春のごとき陽射し部屋にさし、
家人は田舎なり。
日曜の新聞開き、
書評欄を読む。
今日はまた、面白い本多し。
頭冴え、わくわくしつつ読む。
ああ、読みたい、
しかし、気に入った本屋は遠い。
切り抜いて、ホッチキスでとめる。
ああ、かくしてまた、
切抜きのつまった袋が、
あちこち、たんすの取っ手に、
ひっかかっている光景となる。
本屋には行かず仕舞いとなって、
茶色くなった切抜きが残る。
また、新しい書評が出る。



[至福のひとつき](#) [2007-02-05 23:30 by guminomi2]

雛を飾る

半ばに雛を出した。

32年である。

鼻筋にすこし色がついたが、きれいなものである。

・・・顔はればれと六十年、にはまだまだあるが。

こどものころは、雛を飾る家など少なく、

私も色紙で十二単をつかったものです。

ひな祭りより、春の節句（旧ですが）の楽しみがありました。

地区で山に登ったり、松林でのめやうたえ、のところも。

大人も子どもも、巻き寿司を持って、お菓子を持って。

これも小学生のころまでで。





[雛を飾る](#) [2007-02-26 15:59 by guminomi2]

チューリップとインベンションとお雛様

三月は私の生まれ月でございます。
弥生、三月、言いやすいですね、この言葉。
赤と白のチューリップ、原点のようです。
赤と白とインベンション、合いますね。

そして、今日は雛の節句。





[チューリップとインベンションとお雛様](#) [2007-03-03 15:15 by guminomi2]

「美しき水車小屋の娘」

レコード針の製造中止で聞けなくなってしまった。
アマゾンでさがしてCDを買った、迷いつつ。
歌手は同じだが、伴奏者が違う。
同じ物はなかった、27年前のものなので。
アンドラーシュ・シフ、嫌いな伴奏者である。
まるで、そんなに急いでどこ行くの？というような演奏である。
歌手のペーター・シュライアーが好きなので、えいと買った。
アカン、最初の音で、がっくりきた。最後までなじめなかった。
これが同じシューベルト？と思うくらい、感じが違う。
急いで、走って、おまけに1つの曲が終わる度に、大きなピアノがドンと鳴る。
味もそっけもないピアノの音。（ヒステリックなシューベルト）
こうなると歌手の声までが味気なく聞える。

昔のレコードの伴奏者はシュテフェン・ツェール（ハンマークラヴィア）
牧歌的で何とも好き。味わい深い。
いっしょにうたっていた、全部はうたえないが。（もちろんハミングで）
あああ、このレコード、CDになっていないのかなあ！



[「美しき水車小屋の娘」](#) [2007-03-05 15:03 by guminomi2]

陽光、ひかり、

風、強し。

今年も、

また。

雛さまに

祝おてもらう

誕生日

晶



[陽光、ひかり、](#) [2007-03-11 16:49 by guminomi2]

12日目の赤い、

チューリップは
ビロードのように
なってくる。



[12日目の赤い、](#) [2007-03-14 23:13 by guminomi2]

パソコントラブル

やれやれ、また、会社に電話である。

明日が金曜でよかった。土日が休みのところである。

最近はほとんどフリーダイヤルで、これがまたつながりにくい。

ほっとけばよかったのに、いじくりまわしたおかげで、

よけいぐちゃぐちゃになってしまった。

たくさん入っている画像が見えなくなってしまった。

説明がやっかいである。

寝つきの悪い夜になる。やれやれ。

[パソコントラブル](#) [2007-03-15 23:13 by guminomi2]

パソコントラブル、続きの記

すべて元の通りになった。
私は夜がだめである。
間違いは大体夜。
朝になると頭が冴える。
なんで、こんなことをした！
という間違いは夜。
午前中は頭が生理整頓され、
午後にだんだん
境界線があいまいになり、
夜になるとすっかりボケる。
家人がまったくの反対なので、
ずいぶんとこれでも
夜に強くなったが、
頭の中は元来のまま。
難しいことは朝、考えよう！！



[パソコントラブル、続きの記](#) [2007-03-16 10:10 by guminomi2]

石川県能登に地震

12年前を思う。
日本は地震列島、そして
原発列島。
原発は絶対安全に、
作られてあり、
地震で壊れることを
想定していないという。
故に壊れたときの
マニュアルを
作っていないという。
ほんとうだろうか。



[石川県能登に地震](#) [2007-03-25 23:28 by guminomi2]

GIOVANNI MIRABASSI

試聴してとても気に入って買った、ネットで。
ピアノソロ、ひとつひとつの音がとてもきれい。
このひとは何者？ネットで見てみたら、
イタリア生まれフランス在住のジャズピアニスト。
アルド・チッコリーニと出逢っているらしい。
それで納得、どこかで、聴いたような。
違和感がなかった、初めて聴いたとき。
私はチッコリーニのサティのアルバムを持っている。
針がなくて長いこと聴いていないけれど。
ヨーロッパのジャズ、好きになりそうだなあ。







[GIOVANNI MIRABASSI](#) [2007-04-09 15:26 by guminomi2]

仁川を遡って

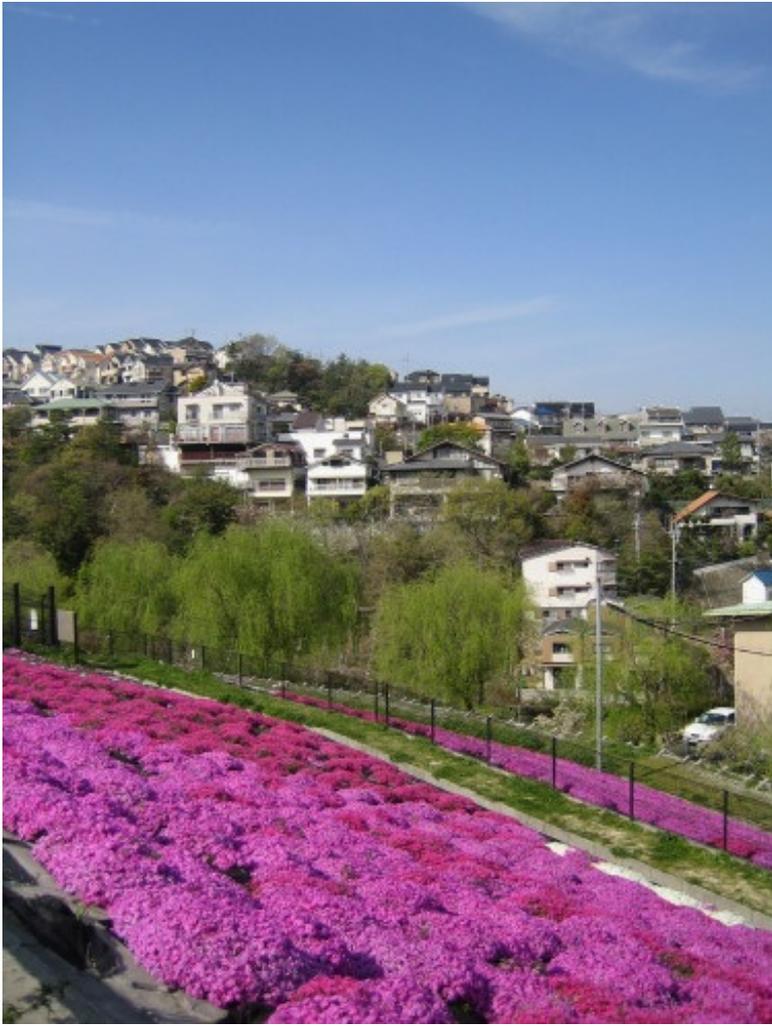
カルガモの親子なのだ。



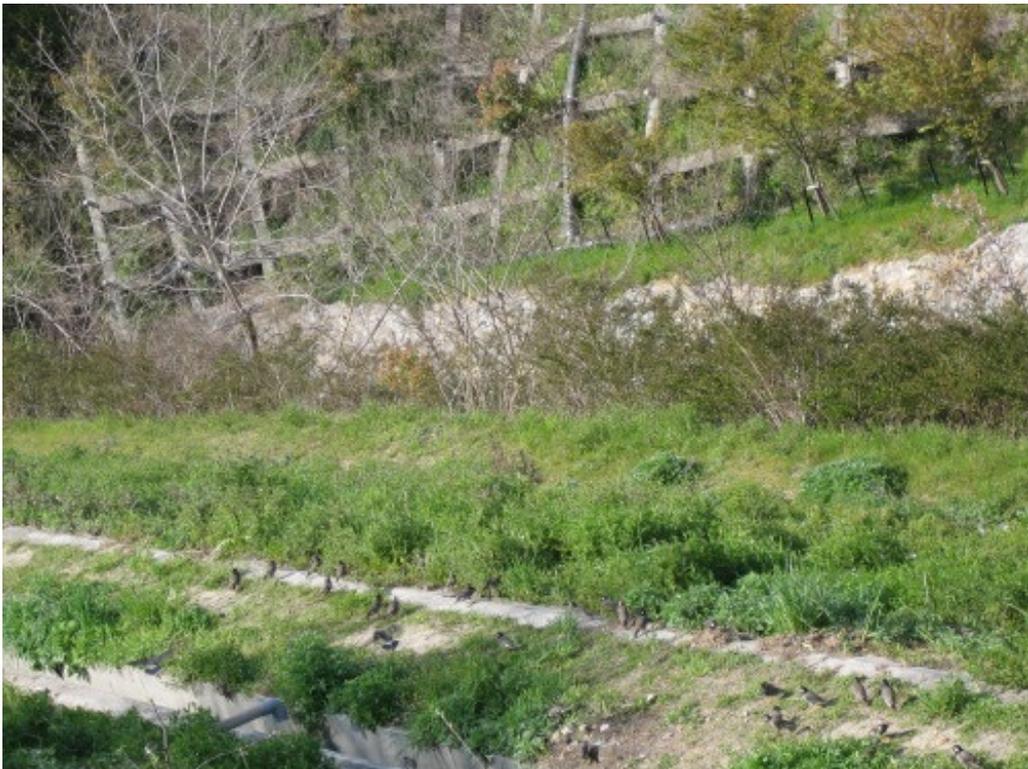
魚がいなくて悲しいのだ。



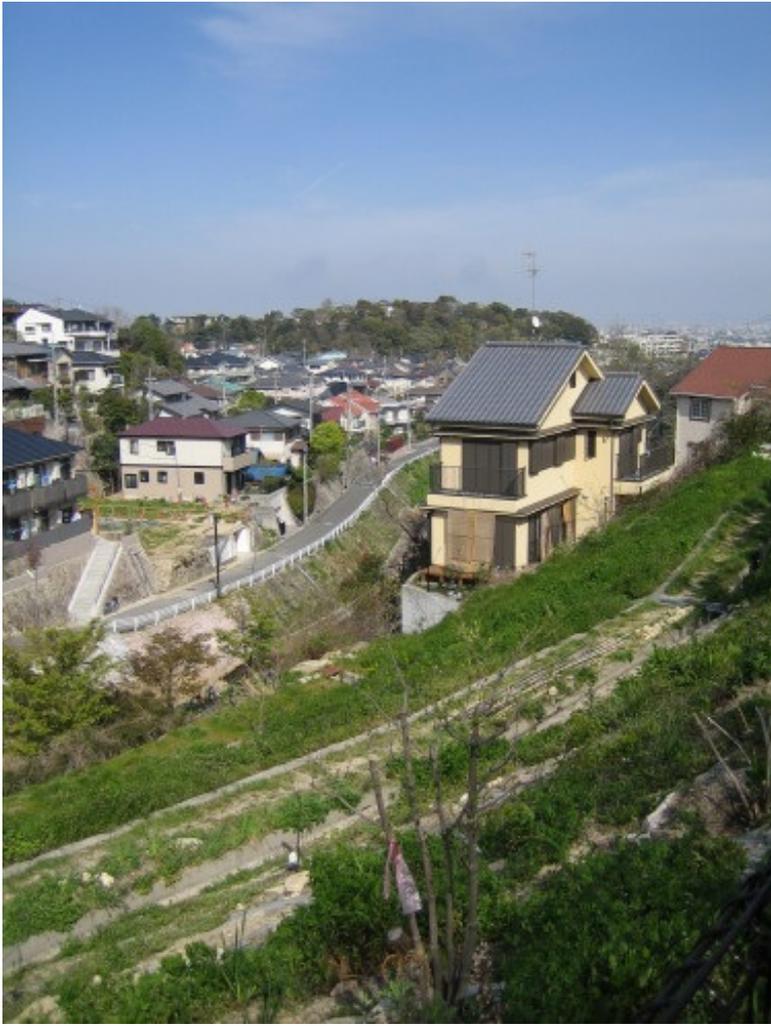
地すべり跡地のシバザクラ満開なのだ。



資料館の裏手には鳥がいっぱいなのだ。



跡地から見た景色なのだ。



[仁川を遡って](#) [2007-04-17 23:21 by guminomi2]

夕方の散歩もまた、











[夕方の散歩もまた、](#) [2007-04-28 21:54 by guminomi2]

憲法記念日

いい天気である。

議論するなら徹底的にしてほしいと思う。

うやむやに、なんだか知らないうちに、は絶対いやである。

時間をかけるべきである。

あわてる必要があるのか！





[憲法記念日](#) [2007-05-03 23:18 by guminomi2]

京都国際マンガミュージアムと清水寺

連休明け、夏を思わせる暑い日。

[マンガミュージアム](#)は使われなくなった小学校に造られている。

この小学校がすばらしい。鋸の打った階段、チェスのような模様の階段、シャンデリアのような電灯、磨かれた木の床、壁の色、

写真に撮れないのが残念！

壁のマンガは自由に読める。一週間ぐらい近所に逗留して通うという手もある。

マンガ好き者、必見！昔からのをほとんどそろえている。

ついで、清水寺、小学校の修学旅行以来、そしていまでも修学旅行のメッカ。

バス停から遠い、坂道、階段、と運動不足気味にはちょっときつい。

でかい寺である、何の寺だろう、と思ったら、観音様のようなのである。

清水の舞台は、すこし下り気味で手すりが低い。

下は一面の若葉のもみじである。

これが紅葉したところを想像すると、清水寺は秋が一番、と思ってしまう。





京都にて

[京都国際マンガミュージアムと清水寺](#) [2007-05-10 23:05 by guminomi2]

黄緑の楽しみ

雑草（私が名前を知らないだけだが）を撮るのはとても楽しい。

毎年、この季節いつの間にやら顔を出す。

いきいきと生い茂る。

しかし、この雑草、プランターでつくろうと思うとむずかしい。

去年、スイカズラを土手から手折ってきて、挿し木にした。

今年ほとんど枝をのばし、ベランダの手すりにまき付いているが、

花芽一つもなし。土手のスイカズラ花盛り。やれやれ！

前にポピーに似たのをつくろうとしたときもだめだった。

買って来た山野草も根ばかりはって、なかなか花をつけない。

本気でやってないことも影響していると思うが。



五月のにおい

[黄緑の楽しみ](#) [2007-05-17 13:16 by guminomi2]

子どものときは猫も好きだったが、どちらかというとなりのほうが好きだった。
犬は大人になって飼った、そして不義理をしてしまった。
何に対して？もちろん、飼っていた犬に対して。

歳をとって、次第にわき目もふらず飼い主を見つめる犬はどうも
好きになれなくなってきた。

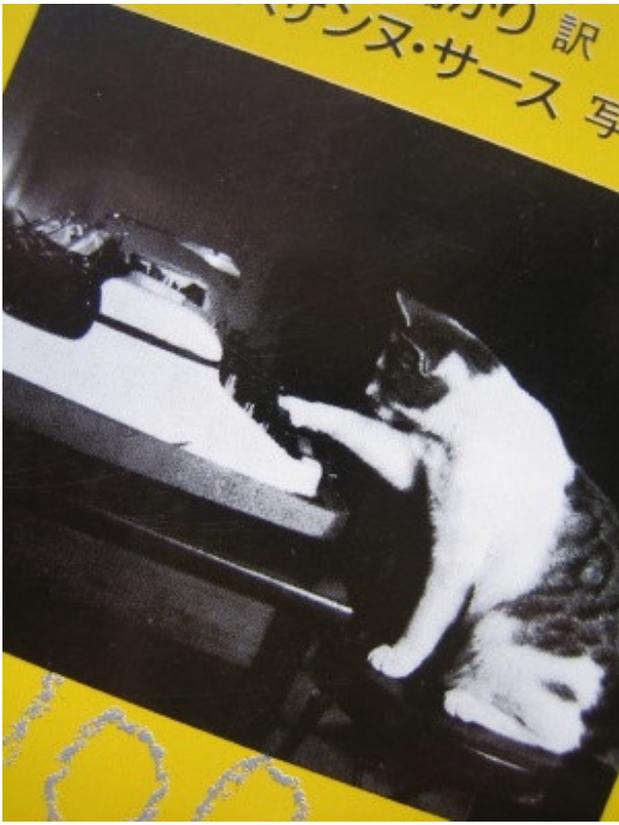
（もっとも、昔いた犬はかならずしも飼い主ばかりを見ている犬ではなかったが）

何年前か、駐車場にやたら人懐っこいトラ猫が迷い込んできたことがあった。
どこかで飼われていたのが捨てられたらしい。
足にすりすりしたように寄ってくる。
野良猫は距離をとるものだが、私の場合は私のほうが距離をとる。
30cm、離れていてね、と猫に言う。

この本には、
人間の家をのっとる方法、など、猫にとってのバイブルのようなことが
いっぱい書いてある。

（もちろん、これはあくまで猫が書いた本なのである）

しかし、強迫神経症の人間をものにする方法は、
残念ながら、書いてなかった。
私は非常に残念です。



[猫語の教科書](#) [2007-05-17 16:05 by guminomi2]

葵

母の居る施設のすぐそばのバス停をすこし下ったところにけっこうな空き地がある。バス待ちのあいだに行ってみた。

2メートルはありそうな葵が盛りである。むかしは田舎のどの家にもこの花があった、ように記憶している。

つくりたいと思いつつ、忘れ、花を見て、またつくりたいと思う。

一重が好き。濃い桃色やピンク、

この場所には、他にも白いマーガレット、黄色いグラジオラス、オレンジの百合、足元に小さな、濃い黄色の名を知らない花が密生して咲いている。

よく見ると濃い紫の小さなスミレもある。

そのどれもが実に鮮明、澄み切った色をしている。

隣の家の人が作っているのでしょう。

カメラを持ってなかったのが残念。

いまいいな、と思っている花の中にホタルブクロがある。

私の家から駅に行く途中の家の門のそばにたくさんの花をつけている。

これもまた写真を撮ろうと思いつつ、うっかりしてしまう。

この何年か、子どもものころに見ていた花がやたら懐かしい。

芥子、ホウセンカ、ダリア、ひやくにちそう、せんにちこう、撫子、

極めつけはササユリ、（これは私の田舎では山百合とよんでいた）

これを見に、私市の植物園に行ったことがある。

ほんの2、3本咲いていただけであった。ずいぶんと前のことである。

[葵](#) [2007-06-22 15:24 by guminomi2]

今日、沖縄「慰霊の日」

私のように歳をとっていても、頭ではわかっていても、
実感の乏しいことはいくらでもある。

行動を起こすことは限りなく勇気と忍耐がいると思うし、
何もしていないのはまた多少の罪の意識の中で
右往左往しているようなところがある。

新聞はまめに読むことにしているがそれとて真実かどうかはわからない。

外国はおろか日本の中もろくにいったことのない身としては、
できるだけ知りたい、と思うことと、選挙権を行使するくらいで、
じつにみみっちく生きている。



[今日、沖縄「慰霊の日」](#) [2007-06-23 22:58 by guminomi2]

タイサンボク

例によって例のごとくデジカメ近所周りをしていたら、
大きなお家にぽっかりとタイサンボクの花。
下から見上げることしか出来ないけれど、これはうれしい。
ついでに今の季節の花と木をアルバムにしました。



タイサンボク

合コン

リサイタルを見ての帰り、
ン十年ぶりのホテルの喫茶店に入る。
10人ぐらいの若者グループが入ってきた。
男女半々で親しくもなさそうな独特の雰囲気である。
両隣の女の子に集中して男の子が話しかけ、
真中の女の子は、何とも手持ち無沙汰という感じで、
目を泳がせ、半ば笑いを含んだ口元で、待っている。
ああ、その子の親になってしまった私は、
いたたまれなくなって、マンゴープリンをひたすら食べる。



[合コン](#) [2007-07-01 15:38 by guminomi2]

Nostalgia

今回下調べを全くしなかった、この演劇とはちょっと不幸な出会いをした。

前の夜、蚊に付きまといわれて、あまり寝ていなかった。

ラベルのボレロに似た繰り返しの音楽はじつにけっこうな子守唄であった。

前半、目は開いていて、場面はかろうじて見ていたが、

頭は寝ていた。こっくりと舟をこいでいたかもしれない。

後半、大音響に心臓の筋肉がびりびりふるえ、吐き気を止めるのに

必死だった。早く終わってくれと、念じた。

2年前の「キートン」はあまりの寒さに凍りつきそうになりながら見た。

しかし、十分に面白かった。だだっぴろい南港はこの劇団によく似合う。

今回のも外で見たかったと思う。

外なら音は分散して、人の体の中を通り抜けることもなかったように思う。

大体のことにいえるが、一番最初、というのは、なかなかわくわくして

楽しいが、二度目というのがいちばん何をするのも、

見るのも気を使うような気がする。

もっとも今回は、本当に見た、とはいえない状態だったけれど。

もう一回、見直してみる？と聞かれたら、

私は前の「キートン」を見る、というかもしれない。





ウルトラマーケット

[Nostalgia](#) [2007-07-09 15:21 by guminomi2]

黄斑変性症

また追加。緑内障の軽い左目に。
一ヶ月ほど前から、乱視がきつくなって、
焦点が合いにくくなってきたなあ、と。
昨日瞳孔を開いて検査。
まだほんの入り口だけど。
またまた、治らない病気である。
歳をとる、ということはこういうことか。
一足先に目の寿命が来ているということか。

一番最初に緑内障の宣告を受けたようなショックはない。
それは、今見えている、ということに過ぎない。
朝起きて、見えなかったら、パニックではすまないだろうね。
さて、今は文明の世である。
目の寿命を受け入れるわけにはいかない。
ルテインが効く（といっても治るわけじゃない）らしいから、
せっせとサプリメントを取り込むことにしようか！



[黄斑変性症](#) [2007-07-13 16:19 by guminomi2]

液状化

川はその土地にあわせて流れている。

その蛇行している流れを変えてまっすぐにして公園や家を建てる。

そんな元の川の上にある建物に被害が集中しているとTVで言っていたが、人間が強引に自然を変えることの怖さを感じる。

便利にする、というのは徹底的に自然に逆らっているのかもしれない。

その危ない上に一番危ない原発があるというのもまさしく怖い。

徹底的に情報開示して、廃止も覚悟で補強して欲しいと思う。

不便も、みんなで不便すればわるくない、と思うのだが。

本当の事故が起きてしまうと日本は住めなくなるんじゃないかな。

逃げ道のない庶民はおだぶつである。

目をつぶって地獄の橋の上を綱渡りしているようなものだろうか。

そのわりには、用意も何もしていないのだから、

極楽トンボもいいところである。（これは私）



[液状化](#) [2007-07-18 22:52 by guminomi2]

天神祭り

今年もまた、TVで、天神祭り。
はるか昔、大阪に出てきた年、
一人でわくわくしながら、行きました。
ものすごい混雑した橋の上から、見ました。
よく帰れたものです。
そのあと、何年かして、一回行ったような？
それっきり。
天神祭りが来ると今年も夏！



TVで天神祭り

[天神祭り](#) [2007-07-25 22:46 by guminomi2]

TVの前で、黙祷

この日はいつも暑い。

本当は一人でも核廃絶の行動を起こすべきなのに、何もしていない。

願うだけではどうにもならない。



[TVの前で、黙祷](#) [2007-08-06 22:07 by guminomi2]

午前**11時2分**。

痛みを自分のものとするのはなかなか出来ませんが、
知ることと、忘れないでいることはできます。



[午前11時2分。](#) [2007-08-09 23:14 by guminomi2]

終戦の日の昨日。

子どものころは、8月15日は、お盆の行事の最後の日で、地区のお寺で、盆踊りがあり、お店も出て、アイスクャンデーを食べたりして、それはそれはじつに楽しみなワクワクする日でした。

その日、寺は朝から炭鉱節や東京音頭、流行歌などを流し、私はここで歌謡曲を覚えてしまい、いまだに歌いだすとすると出てきます。青年団にいっぱい人がいて、盆踊りの人垣が三重になっていた頃です。やがて二重になり、子どもの参加になり、それもなくなり、今ではお盆の行事だけが残っています。

昨日は、狂ったように暑い、カンカン照りのアスファルトを線路沿いにけっこう歩きました。帰りもまた、同じ道を、流れる汗が、目に入るまま歩きました。駅のホームが意外に涼しく風がとおり、一息つきました。

この駅は海が近いのです。

車中から、きらきら光る海が見えました。

ずいぶんと長く海を見ていなかったことに気がつきました。



[終戦の日の昨日。](#) [2007-08-16 16:23 by guminomi2]

TVで五山送り火

外は地獄の暑さ。

TVの前で、五山送り火、全疑似体験。

よき哉！



五山送り火

[TVで五山送り火](#) [2007-08-18 16:13 by guminomi2]

皆既月食。

今の時間はすっかり曇ってしまったが、
見えました！月が元に戻りかけているところ。
夜空はきれいに晴れていました。
いいなあ、私は月が大好き、
懐かしい。
今日は旧蕨入り。



[皆既月食。](#) [2007-08-28 22:37 by guminomi2]

長谷川潔を見る。

伊丹市立美術館は、私の好きな柿衛文庫と同じ建物。

かっきりと細い清潔な線が何とも私の好み。

古い銅版画技法で作られたコップに挿した野の花には見入ってしまった。

野の花、野草、小鳥、魚、対象は小さくて、画も大きくないのに、

その画の向こうにあるものが見えるような気がする。

美術館の庭には萩が咲いていた。





[長谷川潔を見る。](#) [2007-09-14 23:28 by guminomi2]

あっけない幕切れ。

知り合いのダンナがなくなった。
植木の手入れをしていて、
はしごといっしょに倒れて、
ブロックで頭を打って、
隣の敷地に落ちて、
30分ほどして救急車で運ばれて、
医者にダメだろうといわれて、
10時間の手術をして、
3000ccの輸血をして。

風もない、いい天気。
いつもの植木の手入れ。



[あっけない幕切れ。](#) [2007-09-18 21:58 by guminomi2]

牧野四子吉展。

超細密の生物生態画。

どこまで観察するとこんな風に描けるのか！と思うくらい、

私は海の生き物に感心してしまった。ホヤ、ヒトデ・・・

どんなにきれいな写真でも出せない、この味。

万人が納得してしまうのではなからうか。

てらいや気負いのないまっすぐな味。

正確無比なのにやさしさがあらわれている。

初期の日本画（油絵か）が妙に暗いのと比べると

生物生態画の方は落ち着いておだやかで、

いい人生をおくったのだな、と思われる。

[「いきもの図鑑」](#)

芦屋市立美術博物館。

一度行きたいと思いつつ、電車の駅から遠いのをいいわけにして

行ってなかったのを、やっそこさ行きました。

行く途中に松並木があったのが印象的。

杉林は暗くて苦手だが、松はどこかあっけらかんと明るいイメージ。

落ちた松葉をさくさく踏むのも、まつぼっくりもたのし。

美術館は街路樹もきれいな緑が多いいいところ。

隣が図書館、ここもよさそうな感じ。

美術館の敷地に入ったところに、小出檜重さんのアトリエが、

移築されていて、喫茶店が併設されている。

小出さんの豊満な裸婦の絵や家具が置かれている。

美術館の内部は、まあ、明るいけれど普通かな。

展示室はいつも思うけれど、私のように目の悪い人間には暗すぎる。

牧野四子吉のような繊細な画を見るのには苦勞する。

美術館としては、わりとよく行く伊丹市立美術館のほうがはるかに好き。

緑のない、大きい道路のすぐそばの伊丹のシンプルなつくりが

意外と落ち着く。柿衛文庫がいっしょにあるのがいいのかも。

何気ない、というのも特徴のひとつでしょうね。

景観として、芦屋がいい。

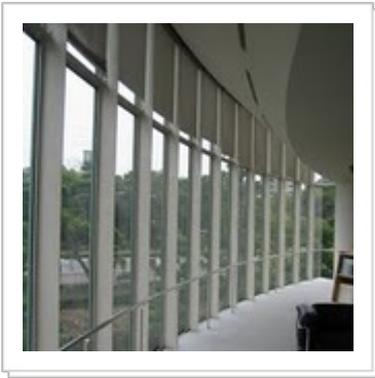
緑がいっぱいで、ひろがりがあって（地図で見ると海が近い）明るい。

そうそう、隣に、谷崎潤一郎記念館がある。

時間の都合で見なかったけれど、

もうすこし涼しくなってから、芦屋川をデジカメ片手にぷらぷら下って、

海に出るのもいいな、と思ってます。



芦屋市立美術博物館

[牧野四子吉展。](#) [2007-09-25 12:29 by guminomi2]

ヒガンバナ。

草藪の中にひっそりとしているのか。

竹藪に隠れてしまうのか。

来年も咲いておくれ。

何年も何年も周りに咲いておくれ。



[ヒガンバナ。](#) [2007-09-29 23:00 by guminomi2]

浮世の画家。

もう少し前に、読んですぐ書くつもりが、なにやかやで遅くなってしまった。歳をとってもう線があいまいになっている。

「浮世の画家」のあと「日の名残り」を読み返してみた。「日の名残り」を読んでいると昔見たこの映画の場面が、もうすっかり忘れていたと思っていた場面が、くっきりと鮮明にあらわれてくるのに驚いた。小説と映画がまったく違和感なく平行してながれていき、また映画を見ている気分になってしまった。これはすばらしい経験だった。私は私の好きな小説の条件として、読んでいると景色が、場面が浮かび上がってくるのをよし、としている。印象的な最後の場面など、歳をとればとるほど何ともいえない切なさをも含めて無条件にわかってしまうところがある。

さて「浮世の画家」読み出して、ここは、はてどこの国のことだろうかと思ってしまった。景色がまったく浮かんでこない。しゃべっている、あれこれと。どどこになにがあって、どんな風で、いろいろいっているが、実感できない。むかしの場面転換の少ない、動きの遅い映画を見ている気分。ぶつぶつと皆がひとりごとを、そのひとにわかるだけの、いっているような気がして、目だけが字を追い、眠ってしまったところが多い。私は最初、藤田嗣治がモデルかな、と思ったのだが、そうでもなさそう。戦前と戦後の画家の心境を書いているが、悪くない人生だね！といたい、皮肉ではなく。英語のタイトル、AN ARTIST OF THE FLOATING WORLDが、「浮世の画家」とはいいなあ。でもこの小説、どこの国のことだろうかと思ってしまう。

作者は「日の名残り」ではイギリスのことをとても愛し、よく理解しているように思う。私がイギリスのことを他のいろいろな小説でしか理解しておらず、日本のことは染み付いている、あたりまえだけど、そんなわけでこの小説に違和感を持ったのだろうか。日本人であって日本で成長しなかった、日本人が書くとこんな風な書きかたになるのだろうか。

それとも翻訳の仕方かしら。

いまと思い出を交錯させて書いていることには違いはないけれど、
読後感には天と地ほどの違いがあった。



[浮世の画家。](#) [2007-10-08 12:47 by guminomi2]

ソテツの実。

陽をあびた実のきれいなこと！



[ソテツの実。](#) [2007-10-13 22:54 by guminomi2]

緋色の迷宮（トマス・H・クック）

ずいぶん前の書評で、これを読まずしてミステリを語るなかれ、だったか、これを読むとミステリがわかる、ようなことを読んだ覚えがあって、いつか読んでやろうと思っていた、今日、一息に読んだ。

最近、歳をとったのと、目が悪くなったこともあって一冊の本を、一息に読んだことはなかった。

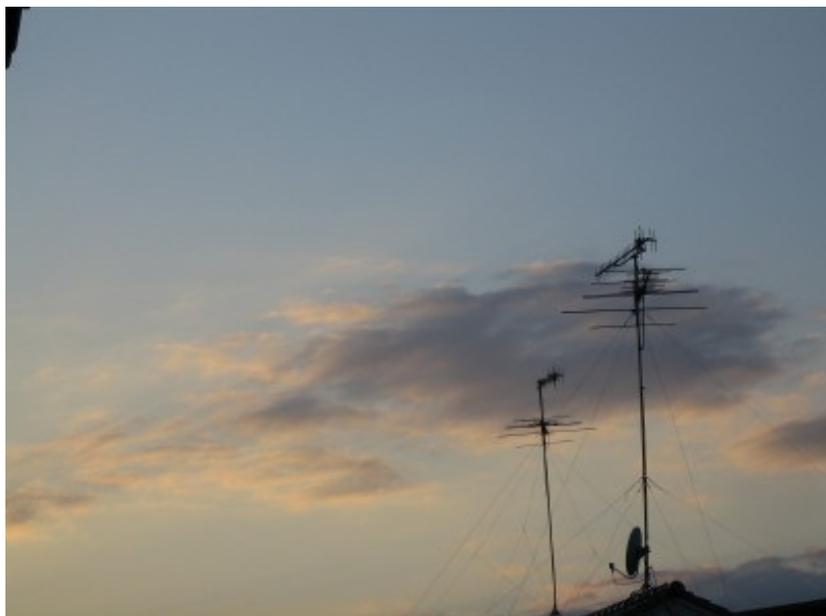
おかげでいま目の焦点がまったく合わなくなってしまった。ひどい乱視である。結局のところ、だれきった私を一息に本に向かわせてしまう力が、この本にはあった。

主人公の息子が少女誘拐の疑いをかけられてからの父親の心理と意外な、というよりやりきれない、が、読後感は悪くない、結末に至る話。普通は、探偵、刑事、その他いろいろがいて、事件を解決していくのが多いが、これは主人公の父親といっしょに心理の暗闇に迷い込み、右往左往して進んでいく。途中で読むのを止められなくなってしまう。

私の乏しいミステリ経験でしかないが、こういう進み方もあるのだ、と、いう初めての経験。次を読みたくなった。

しかし、翻訳はなぜか、物足りない感じがした。訳者のあとがきも。

これは文春文庫だが、私は創元推理文庫の方が好き。



[緋色の迷宮（トマス・H・クック）](#) [2007-10-20 23:06 by guminomi2]

秋日和

集合住宅に植木屋さんが入った。

ちょきちょきちょきちょき、
ががーががーががーが、

昼飯を食っている、

手作りだ、

うまそうだ、

でかい声だ、

年寄りだ、

仲良さそうだ。



[秋日和](#) [2007-10-24 13:53 by guminomi2]

歯医者さん。

どういうわけか、前の下歯の1本がひゅ〜としみるようになって、
知覚過敏か、と思い、何年ぶりかで歯医者。

前の歯医者さんが宇宙旅行に旅立ってしまい、ごく近所の歯医者に。

結局のところ、知覚過敏のようなもので、歯茎をきれいにして、薬をつけて、
3回くらいで、まあまあ、の状態になった。

何年も行かなかったわりには、歯石もたいしてたまってなくて、
よく磨けてますと、のお言葉。

子どものころから、きちんと磨いていれば、虫歯にならなかったのにな、と
ちょっと悔しい。

それにしても歯医者で歯石をとって、裏のなすび（黒くなったところ）をとって
歯茎をしめてもらうととても気持ちがいい。

もやもやとしていた歯が一本一本きゅっとしまっ、つるつるして、
歯にめりはりがある。1年に1回は行くべきだなあ。



[歯医者さん。](#) [2007-11-18 00:16 by guminomi2]

「ひとがた流し」

土曜ドラマ「ひとがた流し」の最終回、
久しぶりにティッシュの山を築いた、
と、いってこのドラマがよかったかどうかはまた別問題。
だいぶ前に新聞で読んでいた。
原作の、淡彩であるのに、さざなみのように流れる心理が、
あらわせていたとは思えない、
と、思いつつ見てしまったが、
かといって、全部画いてしまっていたら、
かえって暑苦しいだけのドラマになっていたかもしれない。
でもやっぱり、もうすこし、陰影が欲しかった、と思う。

さばさば、を乗り越えていたくらい、さばさばしていたところのあった、
むかしを思い出してしまった。
当時はさばさば、とは全然思わなかったが。
思えば、浮世の垢をずいぶんつけてしまったものだ。
透き通ったペリカンの水彩絵の具で、
絵が描きたくなった。

